

宮城県民会館・宮城県民間非営利活動プラザ複合施設新築設計
公募型プロポーザル 評価・選定講評

【第2段階評価の経過】

第1段階評価を通過した5者によるヒアリング（プレゼンテーション）の後、評価・選定を行った。まず、各プロポーザル提案者の提案書の内容と表現等が実施要項及び要項の留意事項に抵触しないことを確認し、5者を評価対象とした。

評価・選定にあたっては、7人の委員による評価に入る前に、各プロポーザル提案者の提案書の内容について改めてヒアリング順にレビュー（振り返り）した後に評価に移った。評価は記名とし、あらかじめ設定された評価項目ごとに評価点数を記入、全員が記入後、事務局で回収し集計を行い、その結果を全員に配布して審議した。

なお、第1段階評価での合計点（評価点）はそのまま持ち越し満点10点として換算、第2段階評価（提案書・ヒアリング）の評価点（満点90点）とあわせて100点満点で総合評価点をまとめた。

あらかじめ公表している評価・選定基準に則り、審議を明確化するための順位付けを行い、その結果をもとに審議することとした。順位付けの方法は以下の通りである。

- ① 総合評価点順位の1位獲得数がより多い提案者を上位として順位付けを行う
- ② 1位獲得数が同じ提案者が複数いる場合は、各委員の順位点の合計がより高い提案者を上位とする。
- ③ 順位点の合計も同じ場合は、上位順位の獲得数がより多い提案者を上位とする。
- ④ ②、③も同じ場合は、総合評価点の合計がより高い提案者を上位とする。
- ⑤ 評価を基に委員で審議の上、設計候補者及び次点候補者を選定する。
- ⑥ ただし、総合評価点の平均が60点未満である提案者は、審議の対象としない。

その結果、総合評価点の平均点が60点未満の提案はなかったことから、5者を審議の対象とした。

各委員の評価結果（点数の付け方、順位の判断）を確認し、またそれぞれの評価の観点や提案に対する見方を確認した結果、①今回の建物は、規模が大きく複合用途施設であること、②委員の専門分野がそれぞれ異なることで、判断においての視点や観点にも差異が生じたこと、③点数の付け方は個人による差も少なくなかったことが示された。

議論の結果、最終的な順位付けは、委員の評価をよりの確に反映することができ、また総合的な評価とすることが可能な「順位点の合計」を採用すること、そしてより高い順位点の提案者を選定することが妥当であることを全員一致で確認した。

以上から、順位点で最上位の者を設計候補者とし、順位点が2位の者を次点候補者とするので合意し、その結果に基づいて以下の候補者を選定した。

【総評】

今後の設計過程の中で議論すべき余地が多く残された今回のプロポーザルにあたっては、提案者は非常に苦勞されたこととお察し申し上げます。敷地活用においても、将来の未確定・不確定な要素が大きい中で配置計画にも苦心の跡が窺われました。最終的には劇場・ホール計画における設計者の理解と提案、NPO プラザとの複合による相乗効果や新たな可能性の萌芽を期待させる提案、今後より高いレベルでの対策・対応が求められる環境配慮とカーボンニュートラルへの理解や提案などの観点から、各提案を評価し、適切な設計候補者を選定するために議論を尽くし、以下の候補者を決定しました。

しかし一方で、今後の宮城県の文化創造拠点の顔となる施設の姿としての妥当性、つまりはシンボルとしての建築の表現の追求や、2050年のカーボンニュートラルを見据えた対応と提案という観点からは、いずれの提案も十分であるとは言い切れなかったことも事実です。

今後の設計過程及び事業全体の計画では、関連する部局・組織や団体との綿密な打ち合わせはもちろん、県民の声を適切かつ的確につかみ、反映させることが何よりも大切となります。県民の文化・創造活動を支える一大拠点を、県民の理解と応援なしに計画することはできません。その機運を高め、県民に期待される施設づくりとなることを切に期待いたします。

最後に、多大な労力と時間をかけて提案に挑まれた5者の皆様には、判定委員会委員一同、心からの感謝を申し上げます。

【講評】

設計候補者：株式会社石本建築事務所 東京オフィス

「大屋根下で各部門のブロックが交流広場を囲む」構成で、交流広場を「交流の居間」として位置付け、様々な機能や人のつながりを生み出すことを目指した複合施設としての特徴を生かした提案でした。各活動が相互に感じられ、また見える構成とすることで日常的な利用にも配慮しています。コンパクトで機能的でありながら複合施設の可能性を追求した構成のほか、丁寧かつ綿密に計画されたホール計画はその理解度が高く評価されました。三方向からアプローチ可能なエントランスの計画も評価されました。

以下、今後の設計の中でより丁寧かつ慎重に検討を要するである諸課題についてもあえて示しておきます。県を代表する文化施設としての建物のシンボル性への意識、バリアフリーへの配慮、2階・3階フロアの構成、ホール部分の内装計画（色やデザイン）、2050年のカーボンニュートラル実現のための具体的対応とデザイン、駅からのアプローチにおける屋外通路の計画、来場者に高揚感と期待感をもたらす屋内外の計画、それとあわせた外構・緑化の計画、より安全性を確保する構造計画などです。

本業務は、設計から施工・監理まで長い時間をかけての業務となります。一方で、時

代・社会の変化や設備機器の進歩・発展は早く、それらに適切かつ柔軟に対応することも求められるでしょう。また、カーボンニュートラルに対しての取組機運はより一層高まり、その実現と達成は不可避ですし、県が建設する大規模施設として、社会的要請にも積極的に応えていかなければなりません。

また、建設コストの低減化を図り、その後の安定的な事業運営に資する設計は、県民の理解を得る上で、また本施設を将来にわたって適切に維持管理していく上ではきわめて重要な要素です。加えて、魅力のある屋内外の空間を拠点にして交流人口が増加し、広く認知されることで、結果的に施設の安定的な運営につながっていくことも本施設には期待されます。未来を見据えた設計という観点からの、さらなる検討と実行を期待します。

以上、今後の設計における課題点や期待と要望等を差し引いても、最も優秀な提案であることを確認し、設計候補者として選定しました。設計のプロセスにおける関係者との対話を大切にしたい真摯な施設づくり、そして県民の期待に応える施設づくりを心から期待するものです。

次点候補者：株式会社佐藤総合計画

ケヤキ広場を中心とした緑豊かな「杜のカルチャーパーク」は大変魅力的で、都市の中での新たな場所を創出する強い意気込みと熱意を感じさせる提案として高く評価されました。環境設備や環境配慮面でも「エネルギーープ」や「木の循環」などチャレンジングな提案を織り交ぜた、積極的で意欲の高い姿勢も高く評価されました。また、「エリアミーティング」の設置と各会議体からの積極的な情報発信、検討プロセスの明確化なども好感が持てる提案でした。

一方で、施設計画の中核となるホール計画においては、舞台反対側への楽屋等の配置、主催者駐車場と一般駐車場、搬入動線の混在など、いくつかの課題点と今後の設計における懸念点があげられました。ホール計画全般において設計候補者の提案と比べても、その検討の密度と質が及ばないと判断しました。ギャラリー、NPO、スタジオなどの複合を十分に生かし切れていないプランニング、三方向が駐車場で囲まれる外構計画などに対しても評価が分かれました。

高い評価を得た提案ではありましたが、順位点評価では及ばず次点候補者となりました。

令和4年5月10日

宮城県民会館・宮城県民間非営利活動プラザ複合施設
新築設計業務公募型プロポーザル判定委員会
会長 石井 敏